

五月

平成29年

【定例公演】5月10日(水)午後1時開演

狂言 隠狸 井上松次郎 (和泉流)

能 藤 朝倉 俊樹 (宝生流)

【普及公演】5月13日(土)午後1時開演

解説能楽あんない
世阿弥が「清経」に込めたもの
天野 文雄 (宗徳能楽流
大学教授)

狂言 呼声 大藏彌太郎 (天流)

能 清経 浅井 文義 (観世流)

【定例公演】5月19日(金)午後6時30分開演

狂言 大般若 野村 萬斎 (和泉流)

能 賀茂 片山九郎右衛門 (観世流)

【企画公演】5月25日(木)午後6時30分開演

◎新作から古典―男心の内側へ―

狂言 新作 ふうろしき 茂山七五三

能 綾鼓 香川 靖嗣 (喜多流)

予約開始 = 4月9日(日)午前10時～

窓口販売開始 = 4月10日(月) [チケット売場 午前10時～午後6時] ※窓口販売用に別枠でのお取り置きはございません。

【電話】国立劇場チケットセンター (午前10時～午後6時) 0570-07-9900 / 03-3230-3000 [一部IP電話等]

【インターネット】<http://ticket.ntj.jac.go.jp/> (パソコン)

<http://ticket.ntj.jac.go.jp/m> (スマートフォン) ※詳細は左記ホームページをご覧ください。

●プレイガイド=チケットぴあ 0570-02-9999 [PC・携帯] <http://pia.jp/> / e+ (イープラス) [パソコン] <http://eplus.jp/> [ケータイ] <http://eplus.jp/ntj>

入場料金

定例・普及公演 正面¥4,900・脇正面¥3,200・中正面¥2,700 / 学生: 脇正面¥2,200・中正面¥1,900

企画公演 正面¥6,300・脇正面¥4,800・中正面¥3,200 / 学生: 脇正面¥3,400・中正面¥2,200

※各公演字幕付です(日本語・英語)。※障害者の方は2割引です。詳細はチケットセンターまでお問い合わせください。※出演者などの変更の場合はご了承ください。

定例公演

5月10日(水)午後1時開演

隠狸

シテ/太郎冠者 井上 松次郎
アド/主 鹿鳥 俊裕

藤

前シテ/里の女 朝倉 俊樹
後シテ/藤の精 工藤 和哉

ワキ/旅僧 則久 英志
ワキツレ/從僧 御厨 誠吾
アイ/里人 佐藤 友彦

小鼓 森 田 保美
大鼓 大倉 源次郎
太鼓 柿原 弘和
後見 宝生 和英

金森 良充 水上 優
當山 淳司 金井 雄資
東川 尚史 小倉健太郎
亀井 雄二 小倉伸二郎

終演予定午後3時15分頃

普及公演

5月13日(土)午後1時開演

世阿弥が「清経」に込めたもの

狂言「大藏流」 天野 文雄
(京都造形芸術大学教授)

呼声

シテ/太郎冠者 大藏 彌太郎
アド/主 大藏 吉次郎
アド/次郎冠者 善竹 忠亮

清経

能「観世流」 替之型

シテ/平清経 浅井 文義
ツレ/清経の妻 武田 友志
ワキ/淡津三郎 村山 弘

小鼓 榎 宅 聡
大鼓 河村 眞之介
後見 浅見 真州
谷本 健吾

武田 崇史 武田 文志
小早川 泰輝 馬野 正基
武田 祥照 小早川 修
長山 桂三 浅見 慈一

終演予定午後3時30分頃

定例公演

5月19日(金)午後6時30分開演

大般若

シテ/住持 野村 萬齋
アド/神子 高野 和憲
小アド/施主 野村 万作

賀茂

能「観世流」 素働

前シテ/別雷神 片山九郎右衛門
後シテ/里女 觀世 淳夫
ワキツレ/從者 則久 英志

小鼓 後藤 嘉津幸
大鼓 龜井 広忠
太鼓 小寺 真佐人
後見 觀世 鏡之丞

山崎 友正 谷本 健吾
小田切 亮磨 馬野 正基
内藤 幸雄 山崎 正道
川口 晃平 鈴木 啓吾

終演予定午後9時頃

企画公演

5月25日(木)午後6時30分開演

新作から古典

男心の内側へ

ふろしき

女房 茂山 千五郎
亭主 茂山 あきら
若い男 茂山 童司
頼られた男 茂山 七五三

落語「風呂敷」より
作 帆足 正規
演出 茂山千之丞

綾鼓

能「喜多流」

前シテ/庭掃きの老人 香川 靖嗣
後シテ/老人の怨霊 友枝 真也
ワキ/臣下 森 常好
アイ/下人 茂山 千三郎

小鼓 曾和 正博
大鼓 柿原 崇志
太鼓 觀世 元伯
後見 塩津 哲生

金子敬一郎 長島 茂
友枝 雄人 粟谷 能夫
狩野 了一 友枝 昭世
内田 成信 粟谷 明生

終演予定午後8時45分頃

隠狸 太郎冠者は内緒で獲った狸を主人に知られないように隠しますが、主人に酒を勧められ盆を重ねるうちに...。多祐の浦、そこさへ匂う藤波を藤中・多祐の浦を旅する僧の前に藤の精が現れます。移ろいゆく季節の中に咲く藤の風情を美しく描く、幻想的な曲です。

呼声 無断で旅に出た太郎冠者を叱りつけようとやって来た主人は、居留守を決め込む太郎冠者を呼び出そうと...。平家節や小歌節など、狂言の謡の持つ魅力を味わたる佳品です。

清経 夫・平清経の入水を知り、悲しみに沈む妻の枕辺に、死んだ清経の霊が現れます。すれ違う夫と妻の想い、そして清経の到達した無常観が説かれる世阿弥作の名曲です。

大般若 大般若経を読む横で巫女が鈴を振り神楽を舞うので、僧はうるさくてかたまりません。ところが聞いているうちに自然と体が動き出し...。流れ来たる白羽の矢賀茂 天女姿の御祖神と荒々しい別雷神が現れ、五穀豊穡を言祝ぎ舞を舞います。賀茂神社の縁起を題材にした、瑞々しく祝福に満ちた能です。

新作から古典「男心の内側へ」 能・狂言には、戦後に作られた現在まで上演を重ねてきた作品があります。今回はその中から、恋をめぐる男たちの姿を描いた作品を取り上げます。

ふろしき 亭主の留守に若い男を家へと招き入れた女房。そこへ亭主が帰って来てしまい、近所の男に助けを求めますが...。同名の落語を基に平成八年に書かれた新作です。

仄暗い恋の執心 綾鼓 高貴な女御に恋をした庭掃きの老人は、鼓を鳴らせば逢えると聞き試みます。しかしそれは綾絹を張った鳴らない鼓でした。老人は女御を恨み入水、怨霊となって現れます。喜多流では土岐善磨と十五世宗家喜多実により昭和二十七年(一九五二)に作られました。